

# 2017年 年頭にあたって

2017.01.01

立命館大学技術士会  
会長 大森 秀高

2017年の新年に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は熊本地方や鳥取地方などを襲った巨大地震をはじめ、観測史上初めてとなる東北地方へ太平洋側から上陸した台風10号による水害、36年ぶりの阿蘇山の爆発的噴火など数多くの災害が日本各地を襲いました。また、南海トラフ巨大地震は、30年以内に7割の確率で発生すると言われています。これら水害や地震災害に備えて堤防の補強や構造物の耐震化、資機材の備蓄などのハード対策や情報伝達の強化や防災訓練、ハザードマップの周知、官民双方のBCPの策定などのソフト対策も着実に進められなければなりません。

さらに、高度成長期以降に集中的に整備され完成後50年を越える社会資本が増加しています。適切なメンテナンスと長寿命化を進めることが重要な課題です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けての好景気感のなかでも、前述の日本国民に迫る喫緊の課題を解決することに加え、インフラ構造物の維持・更新、人口減少・少子高齢化時代の地域創生、安定的なエネルギー供給、地域規模の環境保全、インフラ輸出などを通じた国際貢献など、今後取り組んでいかなければならない課題は尽きません。

ここで重要となるのは、その役割を持続的に果たすための担い手をいかに育成するかということです。

立命館大学技術士会は、職域、性別、年齢、地域を問わず、より多くの同窓技術士の方々に当会の活動に参加いただき、次代を担う立命館大学の理工系学生の「技術者になること」への魅力の回復、技術士を目指す後輩技術者への支援・指導をお願いしております。

また、会員各位には、倫理観を持って技術士の使命たる科学技術の向上に努め、公益と国民経済の発展に資するよう研鑽していただくことを願い、そして、国内外の舞台で活躍できる多彩な人材が輩出されることを期待しており、そのお手伝いをするを当会の目的としております。

本年も、当会の目的と役割を再認識し、技術士の社会的地位の確保・向上と立命館大学の持続的な発展に向けて、行動・活動をして参りますので、皆様方のご理解とご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。